

みなさん、こんにちは。ポール ジェソップといます。オーストラリアから来ました。今日は証の機会を与えてくださって感謝します。

私はクリスチアンの家庭に育ちました。私の父は牧師です。神様は私を様々な方法で何回も祝福してくださいました。子供の時から聖書をなったり、教会へ行ったり、いい行動をしたりしました。例えば、悪口をいわず、全然だばこを吸わず、ほとんどお酒も飲みませんでした。でも、高校生まで心からイエス様を愛さなかったし従いませんでした。自身の人生をコントロールしなかったのです。心のうちではクリスチャンではなくて外だけクリスチャンでした。

17歳までそのようでした。そしてそのころ、夏休みにアルバイトを始め、クリスチアンの友達と一緒に働きました。その時途中でいろいろなことについて話しました。ある日、私の生活についてしゃべった後で友達は『君の生活が罪深いのを分かっている』と聞きました。その言葉ははっきりとした強い言葉でした、びっくりしました。でも、その日、車で家へ帰りながらその言葉について考えていました。

私の生活と優先すべきことについて考えながら、生活で本当に心から、イエス様に従っていなかったことがわかりました。一瞬で聖霊は私の罪をあきらかにしました。その瞬間に私の人生で(命)イエス様を一番大切なことにすることができるようになりました。

高校を卒業したあと1年間コース デメンションというクリスチアンのグループで勉強しました。その時、毎日、他の生徒たちと一緒に聖書を勉強したり、いろいろな学校で福音を伝道したり、祈ったりしました。素晴らしい経験でした！その時からクリスチアンの生活が分かり始めました。

そして、2003年に大学に入学しました。大学生活をはじめたら大学のクリスチアンのグループに入るのがとても大切だと思いました。それでクリスチャンユニオンに入りました。実はその年、妻のメリッサもクリスチャンユニオンに入りました。クリスチャンユニオンで毎週月曜日の夜に私達は教誨師から聖書の読み方や、聖書の教え方、伝道の訓練を受けました。それに、毎年、2回 キャンプがありました。そのキャンプでその他の研修や授業がありました。

だんだん、神様が私に正しい生き方、考え方、話し方、祈り方 望まれることについて分ってきました。その時、初めて、宣教師になるのもいいかもしれないと思いました。宣教師のカンファレンスに参加し、宣教師と話し、小さいミッショントリップでタイに行きました。でも、宣教師になるには神様のときではありませんでした。ですから、大学を卒業したあとでキャンベラへ公務員として働くために引っ越しました。

キャンベラで私の仕事は大変楽しかったです。親切な同僚、面白い仕事、いい給料でした。そして、大切な部門で働いていました。それに、たくさん同僚に福音を伝えられました。その生活は本当にすばらしかったです。ところが、心は物足りなかったです。その時、メリッサとメールをよく交換しました。私達はいい友達でいることが続いています。

ある日、友達は私にとっても安い日本の航空運賃についてメールを送ってくれました。メリッサとその友達と私は共通の友達だったので一緒にその時日本に住んでいたメリッサを訪ねる計画をたてました。それで、2008年8月に私は友達と一緒にメリッサに会うために、日本へ来ました。すばらしい経験でした。日本料理を食べたり色々なきれいな場所へいきました。そのときメリッサとたくさん話をしました。

ある日、一緒に奈良の公園へ行きました。シカを見たり、公園でスポーツをしたり、きれいな自然を楽しんだりしました。その公園で遊んでいる途中で不思議なことですが一瞬でメリッサを好きになってしまいました。本当に一瞬で私の心が変わりました。でも、多分、旅行中の特別なフィーリングだろうと思ってメリッサには何も話ませんでした。

でも、メリッサを好きになってしまっただけでなく日本も好きになってしまいました。神様は私の心を日本に導き始めました。メリッサは本当に日本で宣教したがっていたので神様は私の心をメリッサと日本を大好きにならせたと思います。そして、その旅行が終わってからメリッサもオーストラリアへ一緒に帰りました。

オーストラリアへ帰った後、ある夜、寝られませんでした。メリッサのことしか、考えられませんでした。でも、寝られなくても、聖書を読むことができます。聖書を開いて、初め、第1ペテロの手紙3章1節から読みました。夫と妻についての聖句でした。それから、他の聖句を読みたいと思いました。次に読んだ聖句はヘブル人への手紙

13章4節でした。『結婚がすべての人に尊ばれるようにしなさい。』と書いてありました。その瞬間に神様が私にメリッサとの結婚を望んでいらっしゃるのことがわかりました。

その時から、よく、メリッサに電話し始めました。実はその時、メリッサはメルボルンでどこかに住むことが必要だったので私の両親のうちに住んでいました。わたしは両親のうちに電話しましたが、父か母が出たら、メリッサさんはいらっしゃいますかといいました。

1か月後、飛行機でメルボルンへメリッサに会いに行きました。そして、メリッサに付き合ってくださいと申し込みました。彼女はとても驚いていましたが三日後に『はい』と嬉しそうに返事をくれました。5か月後の2009年1月、日本旅行中に河口湖でメリッサにプロポーズをしました。この時もまた、メリッサはとても驚いていましたがもちろん、『はい』と言ってくれました。そして、2009年6月に結婚しました。

それから、日本へ行くことを準備し始めました。私はメルボルンに引越して神学校に入って若者の牧師として働き始めました。結婚後の5年間で神学校を出ること、ハイデイとピッパというかわいい二人の娘が生まれたこと、そして母教会での働きを経験しました。

2013年に神学校で勉強している間に私達は日本で宣教活動をしている宣教団体を捜し始めました。その時、二つの団体の代表と話しました。私はある宣教団体が好きでしたがメリッサは他の宣教団体が気に入ったので二つの団体で迷いました。決められなかったです！ですから、個々にそれについて祈ることに決めました。

その年はとても忙しかったのでほとんど1年過ぎた後でまた、その問題について話し合いました。その時、メリッサが古い友達に送ったメールには『私達は宣教師としてOMFを通して日本へ行きます』と書いてありました。実はOMFは1年前に二人が考えていた宣教団体ではありませんでしたが一度OMFと話すことを互いに決めました。初めてのOMFとの会議の後で私達はOMFが正しい宣教団体なのを知りました。2014年2月にOMFに入る申し込みをしました。

2014年に神学校の仕上げをしながらOMFで日本へ行くために準備していました。2015年1月に日本へ行きかけたので、金銭的な支えが必要でした。ですから、日本の文化とか宣教師の生活とか日本の宗教の状況について色々な教会で話しました。すばらしい経験でしたが2014年11月にはまだ30パーセントの財源しか与えられていませんでした。それにその月にメリッサのお腹に赤ちゃんがいることがわかりました。その月、私達は絶えず祈っていました。

でも、神様は良いお方です！神様は必ず必要なものを与えてくださいます。12月の上旬までに80パーセントの財源が与えられました。信じられない！OMFのリーダーから日本へ行くことの許可を得ました。その上、2015年1月に日本へ着いたら100パーセント財源がありました。

それに、神様はある特定の金銭的な祈禱課題にも答えてくださいました。宣教師にとって日本は生活費が高い国ですから半年ぐらいの間に私たちは二つの特定の金銭的な祈禱課題について祈りました。一番目は、10,000Aドルが与えられるように祈りました。2番目は、毎月、500Aドルが与えられるように祈りました。日本へ来る1ヶ月まえにしたい友達と話した時、彼が『僕は毎月、500Aドルをサポートしたい』と言ってくれました。日本へ来る1週間まえに父の友達からいただいたメールには『10,000USドルを献金したい』と書いてありました。その時、とても嬉しかったです！神様は私たちの祈りに答えてくださいました。それは神様が私たちを日本へ行かせたいかの、大切な確認でした。それで、やっと、2015年2月に日本へきました。

しかし、日本へ来た後、生活はとても大変でした。その時、メリッサが妊娠中だったり、二人の小さい子供がいたり、日本語を勉強し始めたりしました。それに、日本語と日本文化と日本教会文化が全然わかりませんでした。特に去年、大変なストレスがあったり、いつもとても疲れたりしました。時々、続けられない感じがありました。が、神様はいつも必要なものを与えてくださいました。

最も大切な教えは私の性格、私の信仰についてでした。神様は私の弱点について教えてくださいました。神様は自分の努力に信頼しないで神様の力、導き、恵みを信頼することを教えてくださいました。日本語をよく話せないのに神様は私を愛しておられます。日本の文化が分からないのに神様はわたしを使われます。日本に住んでからも神様は私たちを色々な方法で祝福してくださいました。去年の8月に三姉妹の末っ子、アナリスが生まれました。日本でたくさんの人と友達になりました。そして、日本語学校(JLCC)でまだ勉強していますが宋信者に福音を伝えられました。わたしは日本語を話すことがまだ上手じゃないですが毎日、日本人を愛したり、イエスキリストに仕えたりすることができるように祈っています。

今日は聞いてくださってありがとうございました。

みなさん、おはようございます。  
今日証をする機会を与えてくださって、ありがとうございます。

今日は私がどのように信仰を持つようになったか、どのように宣教師として日本へ導かれたか、証をさせていただきたいと思います。

私はOMFのジェソップメリッサと申します。オーストラリア出身です。主人と3人の子供がいます。1年くらい前日本へ来て、今、JLCCで日本語を勉強しています。

多くの日本人のクリスチャンの方の背景と同じように私の家族もクリスチャンではありません。子供の時、教会にも行かなかったし、聖書も読まなかったし、神様についても全く家の中で話したりしませんでした。神様について何も知らなかったのに、不思議なことなのですが、私は子供の時からよく神様について考えていて、どんな方かわからないけれど自分で神様に祈ったりしていました。神様のことについてずっと知りたかったんです。

それで、中学校に入って、やっと、同じ年でクリスチャンの女の子に出会いました。本当に嬉しくて、ワクワクしました。『やっと神様について学ぶことができる』と思ったからです。さらに、彼女のご両親は、元、宣教師で、特にお母さんは伝道熱心でした。私に聖書をくれたり、聖書研究会に連れて行ってくれたり、聖書についての質問に答えてくれました。しばらくの間、そう言うことを続けて、信仰がどんどん成長して行きました。そんなある日、心の中で、イエス様は私を愛してくださっていることが、はっきりとわかりました。自分もやっぱり、イエス様の愛に心えたいと思いました。そして、喜びと感謝を持って、イエス様に罪を告白して、悔い改めました。その日からイエス様と一緒に歩いて、永遠の命という希望を持って、目的がある生活が始まりました。それは14歳の時でした。

私は本当にうれしさでいっぱいだったんですが、次の日にそのことを両親に伝えると、意外にも母に怒られて、反対されてしまいました。

4年間の間、母に教会と聖書研究会に行くのを禁止され、クリスチャンの友達にも会えなかったし、あなたは洗脳されているからそんなものを信じているだけ、我が家はそういうものを信じない方針だし、時間がたてば、あなたの関心も他のものに移っていくはずだと言われて、けっこうつらかったです。けれども、御言葉にあるように、主はまことにいつくしみ深い方です。

第2コリント1章21-22にこう言うことが書いてあります。『私たちをあなたがたといっしょにキリストのうちに堅く保ち、私たちに油をそそがれた方は神です。神はまた、確認の印を私たちに押し、保証として、御霊を私たちの心に与えてくださいました。』そんな大変な中自分自身の力ではなく、まさに神様のおかげで、私は信仰をたもちつづけることができました。

高校を卒業してから大学に通うために小さな、いなかの町からメルボルンに引っ越すことになりました。やっと大学のKGKみたいなクリスチャングループと教会に参加できて、本当に楽しかったです。それで、19歳の時に洗礼を受けました。洗礼の日に家族と友達の前で神様が私の人生をどのように導いてくださったか証ができたのは、本当にいい経験でした。

大学時代に神様は私の心に何度も世界中の人々へ福音を伝えるように、語りかけてくださいました。ある日、アルバイトに行くために、バスに乗って、色んな人が乗ったり、降りたりしているのを見て、胸につきささるような感じを覚えました。このバスに乗った一人ひとりに福音を聞いてほしいと心から思いました。ローマ書10:14節のように私の心が神さまに叫びました。『ところで、信じた事のない方を、どうしてよびもとめることができるでしょうか。聞いた事のない方を、どうして信じることができるでしょうか。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができるでしょうか。』この瞬間に、あらためて、福音を伝える大切さについて考えました。

中学校から日本語の勉強を初めて、日本語と日本に興味がありました。そして、大学でも日本語や日本文化や歴史についても勉強しました。でも、世界中の人に福音を伝えるということと自分の日本への興味は別のことだと思っていて、日本で福音を伝えるなんて全然考えもしませんでした。ところが、ある日、神さまが私の目と心を開いてくださって、宣教と日本への興味は別のものではなくて、つながっているのだと、気づかせてくださいました。

だから、大学を卒業した後、奈良にある日本ミッシェンという宣教団体と連絡を取って、奈良と大阪のいろいろな教会で英語を教えることになりました。けれども、日本に来て、おもにお年寄り小さい子供に教えては、いきましたが、福音を伝える機会はなかなかなかったので、なんとなく、違うかなと思い始めていました。その二年間、コナミススポーツクラブに通っていたんですが、ある日、忘年会があって、ヒップホップクラスの4人の友達と一緒に行きました。たむさんという友達の隣に座って、しゃべっていたんですが、たむさんが悲しそう

な顔をしていたので、二人で早めに帰ることにしました。帰る途中でたむさんはその理由を話してくれました。たむには好きな人がいて、その人もパーティに来ましたが、別の友達とつきあっているよだとわかったのでたむさんは、本当に悲しくなっていました、ということでした。

その話を聞いた時にちょっとびっくりしました。日本の電車の中で日本人の友達と、話したことは、全くオーストラリアの友達とも話すような話題だったからです。文化と顔と言語が違うのに心は似ています。日本人にも、オーストラリア人にも、みなさんにも愛は大事です。皆、愛がほしいんです。でも、それを満たすのは神さまの愛だけです。皆、神様の愛を知って、味わう必要があると強く思いました。ですから、このようなことがあって、神様は私には英語を教えながら福音を伝えるという道ではなく、別の道、つまり、宣教師になる道を準備してくださっていると、はっきりわかりました。

二年間の日本ミッションでの働きも終わり、日本にいつか宣教の働きのために帰ってこられるように神学校に入って、もっと準備をしたかったし、母教会との関係をもっと強めたかったのでオーストラリアに、もどることにしました。

オーストラリアにいる時に、神様は主人と子供達も与えてくださいました。家族と一緒にいても宣教のために日本へ行きたいという思いを神様が保ってくださいましたことを、本当に感謝しました。主人にも日本への宣教の思いを神様が与えてくださって、主人と一緒に準備をすることができました。

二人で神学校で学びながら、母教会で働いて、2013年にOMFに入りました。主人が神学校を卒業した後に日本へ行きたかったので2014年の終わりまで、主人は勉強を続けて、私は二人の娘を育てながら、色々な教会をまわって、OMFと日本宣教について、話しました。日本へ行くために献金と祈りが必要なので色々な教会とグループに行きました。この年は本当に信仰の年、祈りの年、断食の年でした。

オーストラリアから日本へ宣教に行くにはシンガポールでのオリエンテーションコースの6週間前の12月1日までにサポートが80パーセント以上集まっていなければなりません。

一生懸命頑張りましたが11月になっても、まだ30パーセントしか集まっていませんでした。現実的に考えると、行けなさそうに思えますが、素晴らしい力がある神さまはなんでもできると私たちは信じていました。実は、11月は、夏休みを取っていて教会を回ったりすることをしませんでした。神さまだけが必要なものを与えてくださると信じて、そのまま待っていました。11月の末にサポートの集まり具合を確認して、本当に驚きました！何もしていなかったのに急に70パーセントまで上がっていました。本当に神さまは素晴らしいお方だと、あらためて思いました。そして、他にも驚くことがありました。ちょうどその時に祈りの課題の答えが与えられたからです。

実は、この年の前半に主人に聖霊さまの働きで、2つの祈り課題が、示されていました。一番目は、だれかが毎月\$500ドルか、毎年\$10000ドルのサポートを約束してくれることです。二番目は、知っている友達が、額にかかわらずサポートを約束してくれたら、日本へ行きなさいということだと主人の心に示してくださいました。そして、まさに神さまのおかげで、この両方とも祈りに応えられました。

11月の末頃、ある人が急に毎月\$500ドルのサポートを約束してくれて、また、他の宣教のための基金が毎年\$10000ドルのサポートの約束をしてくれました。現実にはありえないようなことです。そして、その締め切りの少し前に妊娠が分かって、サポートも上限ギリギリだったので12月1日にOMFの方からOKサインが出せませんでした。そして、その12月1日は日本のOMFの祈りの日だったので、私たちの締め切りは翌日の12月2日まで伸ばされました。

12月2日の朝にもう一度サポートの集まり具合を確認すると、額は書いてありませんでしたが、知っている友達からサポートの約束があったんです。すごくびっくりして、感動しました。その二時間後にOMFから電話がかかってきて、『はい、いいですよ』と言ってきて、日本へ行くことになりました！神さまに感謝します！出発の日の一月の19日までにサポートは100パーセント以上を満たされました。

私たちは日本へ行くことになったのを本当に喜びつつ、この聖句を思い出しました。『イエスは、彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことですが、神は、そうではありません。どんなことでも、神にはできるのです。」』マルコ10章27節です。神さまと一緒に日本へ来て、これから、ここで奉仕できることを楽しみにしています。

今日お聞きくださって、ありがとうございます。